

独立行政法人統計センター評価に関する有識者会議〔議事要旨〕

1 日 時：令和8年7月27日（月） 15：00～16：00

2 場 所：総務省第2庁舎 6階特別会議室

3 出席者：【有識者】

廣松毅（座長）、加藤久和、小林稔、津谷典子

【総務省統計局】

永島局長、小松総務課長、小川統括補佐、齋藤課長補佐、事務局

【統計センター】

伊藤経営審議役（事務代理）、江原経営企画課長

4 議 題：（１）令和7年度に係る業務の実績に関する評価（案）について
（２）総合評定（案）について

5 議事概要：

（１）令和7年度に係る業務の実績に関する評価（案）について

総務省統計局から、統計センターの年度実績評価に関する基準及び令和7年度における業務の実績に関する主務大臣による評価（案）の説明が行われた。

（２）総合評定（案）について

総務省統計局から総合評定（案）の説明が行われ、項目別評定及び総合評定ともに妥当であるとの意見で一致した。

有識者からの主な意見は以下のとおり。

○統計データの利活用について、マイクロデータのポータルサイト miripo はよくできており、問い合わせ件数、利用件数ともに増加しているとのこと、統計の更なる利用推進に向けて取組を進めてもらいたい。

○各府省支援業務について、府省によって統計部局のマンパワーは非常に差異が大きく、統計リテラシーを一定水準で維持することは難しい場合もあると思われる。専門的な知見を有している統計センターには、情報の水平展開をしていただくとともに、きめ細やかな支援を続けていただきたい。

○統計に関する技術の中で、CTIマクロ（消費動向指数）の予測に関する研究を実施しているが、非常に素晴らしい試みだと思うので、今後の展開に期待したい。

○国勢調査の調査票紛失事案について、想定外の突風という要因もあり、少々評価が厳しい印象も受けるが、我が国の最も重要な統計調査のひとつであり、公的統計調査全体への影響も非常に大きいことから、ある程度厳しく評価することは致し方ない。

○総合評定基準については、統計センターの多岐にわたる業務を適正に評価することができる基準になっており、本年度の業績の評価としても妥当である。

以 上